

聴覚障害実情知って

宮崎市 映像作家が講演

第42回耳の日記念大会（県聴覚障害者協会など主催）は22日、宮崎市の清武町文化会館であった。聴覚障害者らをテーマにドキュメンタリー映画などを製作している映像作家、今村彩子さん(35)＝名古屋市＝が講演し、約600人が聞き入った。

に格差があつてはならないが、限界もある。聴覚障害者自身が命を守るための防災知識を身に付けることや、災害時に助け合える関係を近所の人と普段から築くことが大切」とした。

震災後に宮城県内の仮設住宅に入居した聴覚障害者の男性が、身ぶり手ぶりで住民と交流する様子や、筆談で客の要望を聞き、サーフショップを経営する静岡県の男性を紹介。「手話が分からなくても、工夫すれば気持ちに通じることを教えられた。健常者や聴覚障害者の枠にとらわれず、これからも作品をつくっていきたい」と述べた。

今村さんは生まれつき聴覚障害があり、講演は手話通訳を介して進行。東日本震災の被災地で聴覚障害者を取材した経験から「災害時に音声による避難情報が届かず、逃げ遅れる危険性がある」と指摘。一方で「命に関わる情報



隣人を人々を、今村彩子さんは、宮崎市の清武町文化会館で講演した。聴覚障害者への防災知識の重要性を強調した。22日午後、宮崎市の清武町文化会館で講演した。聴覚障害者への防災知識の重要性を強調した。22日午後、宮崎市の清武町文化会館で講演した。